

月例法話

「三日見ぬ間の桜かな！」

日時：2月19日(水曜日)10:30～

場所：真言宗東芳山**花鳥寺**寺務所3階

地下鉄東西線「蹴上下車」東へ徒歩約13分南側東山花鳥霊園内、駐車場完備

読経 佛前勤行(真言宗総本山東寺)

法話／土口哲光 住職

終了後「お悩み相談」

希望者は、事前にお申込み下さい ☎075-593-7800／個別／秘密厳守

土口哲光住職の著書

真言宗総本山教王護国寺(東寺)第256世砂原秀遍猊下推薦の一冊！

「泣いて生まれてきたのだから

笑って死にゆく準備をしよう」

神戸市西区の真言宗御室派長福寺の長男として生まれ、僧侶となるべく高野山大学に学んだ土口住職。日本の全宗教を取材対象とする「中外日報社」に入社し役員となる。退社後は総本山教王護国寺(東寺)に教化部長として入山、「御影供」の「弘法市」より御影堂の唐門の前に立って辻説法を続けていた。

本書は、そんな土口住職の温かい包容力のある人柄を彷彿とさせる珠玉のエッセイ集。

土口哲光和尚の説法／高瀬川だより3月219号寄稿文

《三日見ぬ間の桜かな》

厳しい冬に耐えて、生命の躍動する春を喜ぶかのように咲く桜、愛でる日が近づく。桜は、秋になって気温が下がると休眠に入り、その後、冬の低温期を経験して休眠から目覚める。気温が、上がれば開花できる状態を保ち、春を待つのである。

古来から「三日見ぬ間の桜かな」という桜に寄せた人生訓話がある。桜は瞬く間に咲いて、サッと散りゆくところから、人は変化し見違えるように成長する者もいる。逆に威張っていた者が、真逆さまに落ちて散りゆく場合もある。今生は「諸行無常」である。万物は常に変化し、少しの間もとどまらない。人生とは問題を生き抜くことで、苦を苦として引っかからない。楽を楽として腰をおろさない。桜が今年も《説法》している